

租税教育の授業の工夫 ～4年生「生活と税の関わり」の学習を通して～

石巻市立中津山第一小学校

教諭 三浦 あや

講師 佐藤 圭恵

1 はじめに

小学校では、第6学年の社会科「私たちの生活を支える税」の中で税金の学習をする。そこで、本実践を行うにあたり、第4学年の社会科「自分達の暮らしを守る人々や働きを知ろう」の単元を横断的、総合的に扱い、総合的な学習の時間の学習テーマを「租税」として学習させていくこととした。

総合的な学習の時間の中で他教科と関連させながら「租税教育」を行い、税金が広く自分たちの身近に存在することを学ばせながら、税金の大切さに気付かせたいと考えた。

2 指導計画（42時間扱い）

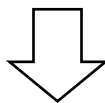
	学習の流れ
気付く	1 「自分達の暮らしを守る人々や働きを知ろう」(社会科) ◎消防署、警察署の見学（6月） ・消防車やパトカーはすごくお金がかかるんだ。 ・消防車やパトカーは<u>だれがお金を出して買っているのかな。</u> ↓ 消防署や警察署にかかるお金が「税金」というものだと知る
調べる	2 税金について知ろう（総合的な学習の時間） ① 税金ってどんなもの？ ②学校の中にある税金を探そう。 ② 町の中にある税金を探そう。 ④税金の金額は、どのように決めるのか考えよう。 ・税金は、みんなが使うものに使われているのだね。 ・自分たちの周りにもいっぱい税金で買われているものがあることにびっくりした。 ・税金の種類って、<u>どんなものがあるの？</u> ・税金が<u>何に使われているのかも</u>っと詳しく知りたいな。

考える

3 税務署の方に税金について教えてもらおう（総合的な学習の時間）

- ◎税金は、どうしてあるのかな。 ◎身の回りの税金を知ろう。
- ◎税金の集め方について知ろう。 ◎税金がなくなると、どうなるの？

- ・税金がなくなると、町が荒れ果ててしまっぴっくりした。
- ・税金は、ただ集めているのではなくて、みんなで助け合うためのお金だと知って安心した。
- ・税金を自分もきちんと払って、いい町を作っていきたいな。



4 税金を使って、よりよい町を作るために、どんな物が必要かを考えよう

（総合的な学習の時間）

- ◎町を作るために、どんな物が必要かを考えて「自分の理想の町づくり」をする。

- ・幼稚園から大学まで近くのあるといいな。みんなですぐに遊ぶことができるから。
- ・みんなが住みやすい町を作るって大変だな。
- ・消防署や警察に関わるお金は、税金を使ったほうがいいな。みんなの安全を守るから大切だもん。



伝える

5 学習したことを伝えよう。（総合的な学習の時間）

- ◎学習発表会で税金について分かったことを劇にして伝えよう。

- ・勉強したことをもっと家族や地域の人に伝えたいな。
- ・劇にすれば、分かりやすく伝えられると思う！
- ・税金の大切さを伝えるには、どんな内容にしたらいいかな。
- ・税金がない世界にタイムマシンで移動するお話にするとおもしろいんじゃないかな。
- ・みんなで、税金がない世界を考えて、劇にしよう。

3 実践内容

(1) 単元名：「税金の集め方について知ろう」 (6月4日(水) 1時間実施)

本時の目標：税金の金額がどのように決められているのか、ゲームを通して理解できるようにする。

	主な学習活動 ○主な発問 ・児童の反応	◇主な支援
導入	1 税金の金額がどのように決められているのかを聞く。 ○税金として払うお金は、どのように決められているのでしょうか。 ・みんな同じお金を払うようにしている。 ・みんな決まった額を払っている。 ・お金持ちは、いっぱい払う。	◇前時に児童は、消費税が誰でも同じ金額であることを学習した。その際に児童から、「給料が少ない人は、払うのが大変ではないか。」という疑問が出た。そこで、本時は、所得税がどのように決められているのかを考えさせて、税金は全員同じ金額で払うだけではないことを知らせる。
展開	2 実際に税金の金額を考えてみよう。 ○税金の金額を考えてみましょう。 ◎税金を5人で1ヶ月100万円集めることになりました。それぞれ、いくら払えばいいのでしょうか。ただし、一人一人1ヶ月の給料は、下のように違います。 Aさん・・・80万円 Bさん・・・70万円 Cさん・・・60万円 Dさん・・・50万円 Eさん・・・40万円 (話し合いの仕方) ① A～Eをそれぞれ班の中で誰にするか決める。 ② 1ヶ月で100万円集めるために、それぞれいくら払うか話し合う。 ③ 表にまとめ、金額を書き入れる。 ・みんなが同じ金額だと公平なんじゃないかな。 ・みんな同じ額だと、給料が違うから残りに差が出てしまうよ。どうしたらいいかな。 ・残りの金額が同じになるとバランスがいいよ。 ・Eさんは給料が少ないから0円でいいじゃないか。 3 考えを発表し、話し合う。 ○それぞれが考えた一人一人の金額を発表してください。 ・全員、同じ額を払わないと不平等だから、全員20万円。 ・一番、多い給料の人は30万円、一番少ない給料の人は10万円、他	◇理由も一緒に考えさせながら、話し合わせる。 ◇表を黒板に提示し、各グループの違いをすぐに比較・検討できるようにする。 ◇悩んでいるグループがいたら、同じ金額ずつ分けるとどうなるかを考えさせる。 ◇考えた理由を掲示し、自分たちのグループの違うところ、比較しや

	の3人は20万円にする。 ・多い人から順番に、40万円、30万円、20万円、10万円、5万円。そうすれば、税金から残ったお金がみんな同じになる。 ・Eさんは、かわいそうだから0円。それ以外の人で100万円を払う。 ○それぞれの意見を比べて、気付いたこと、感じたことはなんですか。 ・全員、同じ額を払うことが公平ではないように思う。 ・給料が少ない人にとっては、苦しい。 ・公平に払う・・・てなんだろう。残った額が同じになることが一番公平なんじゃないかな。 ・みんなが公平になるように、同じ額のものもあるけど、違う金額のものもあるんだね。	すくする。
まとめ	 4 まとめをする。 ○税金は、それぞれの給料によって払う額が決められているものもある。	◇「公平」とは、全員が同じ額を払うことだけではないことを知らせる。

(2) 単元名「税務署の方に税金について教えてもらおう」(6月25日(水)1時間実施)

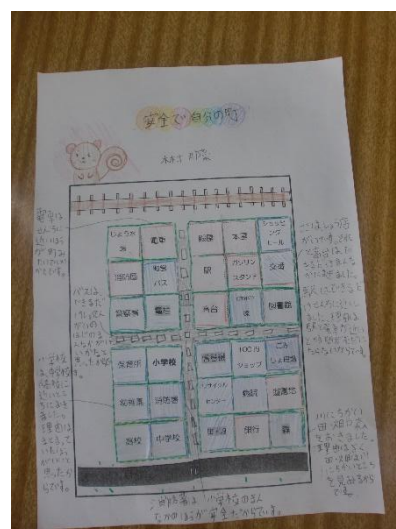
本時の目標：租税教室を通して、税金に関する理解を深める。

主な学習活動 ○主な発問 ・児童の反応	◇税務署の方の主な説明
1 税金の種類について知る ○税金には、どんな種類があるでしょうか。 ・消費税 ・所得税 ・たくさんある！ ・お酒を飲むのにも税金ってあるんだね。 ・聞いたことあるけど、どんなものか知らなかったな。 2 税金の集め方について知る。 ○税金がどのように集められるのか、勉強していこう。 ・すぐには、自分たちのところにはこないんだね。 ・税金の使い道を話し合う人がいるのか。 ・きちんと話し合われて、使い方が決められているんだね。 3 税金がなくなるとどうなるのかを知る。 ○税金がなくなると、どんなことが起こるのか勉強しよう。 ・道路がめちゃくちゃだ。 ・町がぼろぼろになってしまうんだね。 ・消防車を呼ぶのに、とってもお金がかかるんだね。 4 1億円の重さを体験してみよう。 ○1億円がどのくらい重いのか体験してみよう。 ・重い！ ・石巻市の税金は、これが何千倍もあるんだ・・・ ・すごいなあ。	◇他にも、「たばこ税」「自動車税」「法人税」「酒税」という税金の種類があるんだよ。  ◇買い物をするときにかかる<u>消費税</u>は<u>税務署</u>に集められ、<u>国のお金</u>へとなる。  ◇DVD教材を用いて、税金がなくなった世の中について学習しよう。 

(3) 単元名「未来の町を作ろう」(9月3日(水) 1時間実施)

本時の目標:税金を使って,どんな町を作りたいのかを考えることを通して,税金の大切さに気付けるようにする。

	主な学習活動 ○主な発問 ・児童の反応	◇主な支援
導入	1 今までの学習を振り返る。 ○税金は,どんなものに使われていたのですか。 ・みんなが使う, 必要なもの	◇今まで使用したワークシートを振り返りながら想起できるようにする。
展開	2 未来の町作りについて考える。 ○将来の桃生町をどんな町にしたいか考えよう。 (1) どんな町に住みたいかを考える。 ・笑顔がいっぱいの幸せな町 ・安心して楽しい町 ・みんなが元気で楽しい町 ・安全に暮らせて優しい人がいっぱいな町 ・ゴミが少ない, 緑がいっぱいの町 (2) 未来の町を作るために, 必要な建物や物を考える。 ・警察署 ・消防署 ・浄水場 ・横断歩道 ・学校 ・森 ・畑 ・市役所 ・公園 ・電車 ・駅 ・郵便局 ・ごみ処理場 ・公衆電話 ・服屋さん ・遊園地 ・ショッピングモール ・コンビニ (3) 税金で建てる物を20個選ぶ。 ・消防署は, みんなが必要な物だから税金かな。 ・服屋さんは, 使う人が限られているから,税金で建てる必要はないかな。 ・森や田んぼは, 税金を使ってみんなで守ってきたいな。 ・電車や駅は, みんなが使うから税金を使ったほうがいいな。 ・警察署は, 子供が多いところにしよう。そのほうが,安全な町になる。 (4) 税金を使わないけれども, あったらいいなと思う物を10個選んで,町を作ろう。 ・保育園から大学まで, 近くにあったほうがいいな。そのほうがみんなで遊ぶことができる。	◇最初に「笑顔」「安心」「楽しい」など,キーワードとなる言葉を挙げさせて, その後, 一人一人に具体的に考えさせてワークシートに記入させる。 ◇自分が住みたい町を作るためにはどんな建物が必要かを考えさせる。 ◇税金で建てられている建物以外にも欲しい建物や物を考えさせる。イメージが湧かない児童には, 今の桃生町にある建物や物を考えさせる。 ◇自分たちの住みたい町に絶対に必要な物を20個選ばせる。自分だけが必要な物ではなく, 住む人みんなが必要な物かどうかを考えさせながら選ばせる。
まとめ	4 本時の振り返りをする。	



4 児童の感想

- ・「未来の町作り」を考えるときに、みんなが安全で楽しく過ごせる町を作りたいと思った。けれども、町だけじゃなく、森や自然、道路のことについても考えないといけないのが難しかった。自分のことだけでなく、相手の気持ちも考えながら町を作ることも難しくて大変だった。
- ・「未来の町作り」で町を作るのは、思ったよりも大変だった。税金は人が働いたお金だからだれでも住みたいなあと思うような町を作らなければいけないと思った。石巻や他の町を作った人は、すごいなあ、と思った。町を作る人は、授業と違って30個以上だからすごいと思う。
- ・この勉強をする前は、「なんで払わなければいけないのだろう。」と思っていた。けれども、勉強をしてちゃんと自分たちに役立つものに使われているのだと分かって安心した。今は、払ってもらっているけど、大人になったら税金が払える人になりたいと思った。
- ・自分たちの周りの必要なものがほとんど税金だと分かってびっくりした。税金は、みんなで助け合うために必要なお金だと分かったので、大人になって、働いて税金がはらえるようになりたい。そして、もっと自分たちの周りのどんなものに税金が使われているのかを知りたい。
- ・租税教室で1億円を持ったときに、とても重いと思った。そして、石巻市だけでこの何十倍もの1億円の税金が使われているのだと分かってびっくりした。ぼくたちの周りにある必要な建物などは、とてもお金がかかるのだと思った。税金の使われ方について、もっと調べてみたい。

5 成果と今後の指導

【成果】

- ・社会科の消防署、警察署の学習をきっかけに税金への興味をもてるよう、事前に消防署や警察署の方にパトカーや救急車の値段を説明してもらうようお願いをした。説明を聞いた児童は、自然と「そのお金は誰が払っているのか。」という疑問をもち、税金の学習へとつなげることができた。
- ・税務署の方に実際に授業をしてもらったことで、より税金への理解が深まり、大切さについて感じることもできた。また、「学んだことを多くの人に伝えたい」という活動へとつなげることができた。
- ・「未来の町作り」を行ったことで、税金を払うことはもちろん、払った税金が今、町の中でどんなことに使われているのか、税金がきちんと必要なものに使われているのかを調べなければいけないと児童が感じることができた。

【今後の指導】

- ・学んだことをどのように伝えるか話合ったところ、児童から「学習発表会で伝えたい。」という意見が出た。そこで、児童が「税金がなくなったらどんな町になるのか」を考え、それを劇にして学習発表会で伝えていく。